

# 令和6年産の水稻の作付に向けて

令和5年12月1日  
大船渡農業改良普及センター

## 1 病害虫防除対策

### (1) いもち病

- ・ 令和5年度は平年に比べて発生が少ない年になりましたが、一部地域では例年と同様に発生が確認されています。
- ・ 発生してからの対策では被害を防ぐことが難しくなります。
- ・ **基本的な管理（取置き苗の早めの処分、適期の薬剤散布、適量施肥など）**を行い、発生前の予防を心がけましょう。

### (2) ごま葉枯病

- ・ 令和5年度は出穂期以降に高温が続き、水稻の抵抗力が下がったためか、ごま葉枯病が多発した圃場がみられました。
- ・ ごま葉枯病は、下の写真のように病斑がいもち病によく似ています。
- ・ 薬剤散布による効果は薄いため、**土壌改良資材の投入**が防除の基本になります。
- ・ 今年度ごま葉枯病が多発した圃場は、土壌診断を実施の上、**ケイ酸資材や含鉄資材、マンガン資材**を施用しましょう。



写真1 ごま葉枯病が発生した稲

### (3) 紋枯病

- ・ ごま葉枯病と同様に、出穂期以降の高温が続いたためか、病勢が止葉や穂首に進展し、倒伏したほ場が見られました。
- ・ 令和5年度に紋枯病が多発したほ場は、**薬剤散布**を行い予防しましょう。
- ・ また多発したほ場では、伝染源となる菌核の密度が高くなっている可能性があります。
- ・ 代かき時に**水尻や畦畔沿いに集まったゴミをほ場外に処分**し、菌核密度を下げましょう。



写真2 紋枯病が発生した稲



写真3 止葉や穂首への病勢進展

#### (4) 斑点米カメムシ類

- ・ 斑点米カメムシ類の発生は、平年並みに確認されましたが、カメムシ類の防除が適切に行われた地域では、斑点米の被害は少ない傾向にありました。
- ・ 対策は、**雑草管理の徹底**と**適期の薬剤散布**が基本です。
- ・ 草刈りは**出穂期 2週間前まで**に実施しましょう。
- ・ 薬剤散布の適期は、**穂揃期 1週間後**です。

## 2 高温障害対策

- ・ 令和5年度は生育期間中に高温が続き、白未熟粒の発生が多く見られました。
- ・ 登熟初期に高温（**日中 30℃以上、夜間 23℃以上**）が続く場合、玄米品質の低下を招く恐れがあります。
- ・ 登熟期における高温時の水管理は、**間断かんがい（湛水2～3日→落水1～2日）**を基本とし、**水の入替頻度を高める、夜間入水（水尻を止めて夕方から朝にかけて入水→その後自然減水）等**を行いましょう。
- ・ 水が豊富にある場合は、**夜間かけ流し**により、地温の低下をはかりましよう。

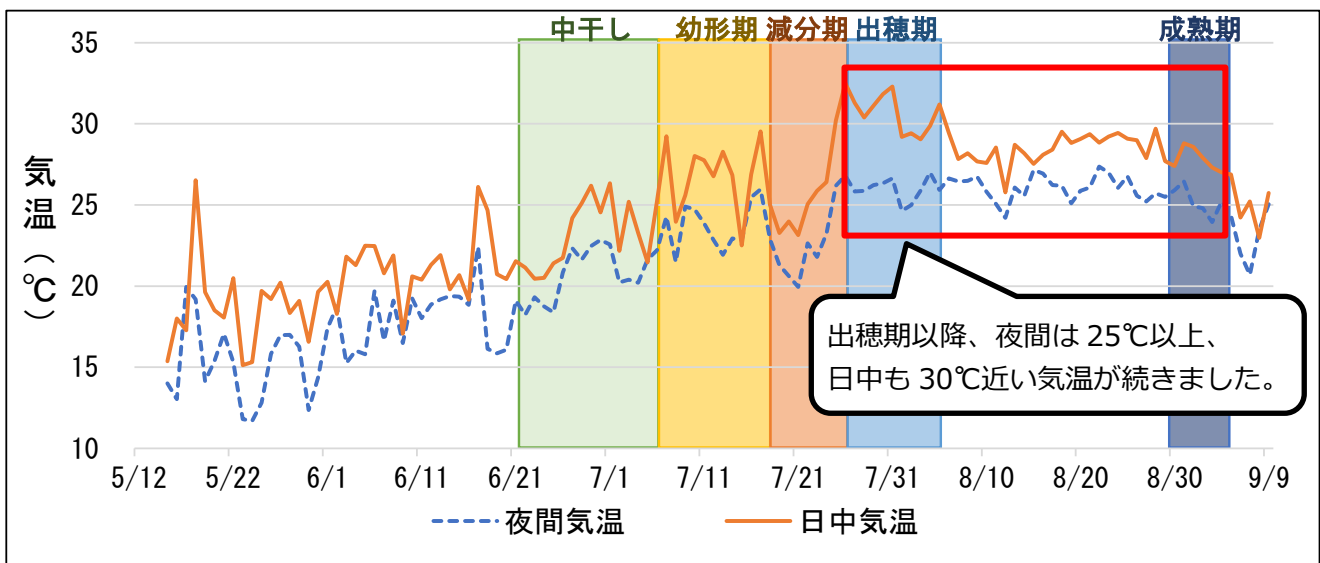


図2 令和5年度の日中及び夜間の気温（アメダス地点：大船渡）